

B-11) 子宮内胎児死亡となった congenital pulmonary myofibroblastic tumor の 1 例

小木曾嘉文¹⁾, 海野 信也²⁾, 中山 雅弘³⁾

症 例: 死産児 (妊娠 30 週 2 日, 男児)

臨床診断: 胎児水腫, 胎児胸腔内腫瘍

臨床経過: 妊娠 26 週 3 日, 出血のため前医を受診, 入院. 妊娠 29 週 6 日, エコー上で胎児水腫および胎児胸腹水を認め, 胎児心拍数の低下もみられたため長野県立こども病院へ母体搬送された. 入院時のエコー, MRI では胸腔内に径 5 cm 大の腫瘤がみられ, CCAM III 型, 胸腔内奇形腫が疑われた. 妊娠 30 週 0 日, 子宮内胎児死亡を確認. 2 日後に娩出され, 剖検を行った.

肉眼所見: 頭踵長 37cm, 体重 1.7kg, 左右肺重量 98.1g (左肺下葉 85.0g). 左肺には下葉のほぼ全体を占拠する 60 × 60 × 45mm の腫瘤が存在する. 明らかな外表奇形はない.

組織所見: 比較的均一な小型の短紡錘形細胞が密に増生しており, ところどころ束状の配列がみられる. 核は円形・楕円形・紡錘形で, 核縁は鈍である. 分裂像はほとんどない. 腫瘍組織は血管が豊富で, 内部に既存の細気管支が散見される. 浸軟に関連すると思われる壊死巣が多発性に存在する.

考 察: Congenital pulmonary myofibroblastic tumor は, Alobeid らの報告 (Am J Surg Pathol, 21(5): 610-614, 1997) によると, 平滑筋への分化傾向を示す紡錘形細胞の密な増生, 既存の気管支を腫瘍内に巻き込むことがある, ときに胎児水腫を伴う, などの特徴を有する肺の先天性良性腫瘍である. 本症例の所見はこれらの特徴と非常によく一致しており, congenital pulmonary myofibroblastic tumor の典型例と考えられた.

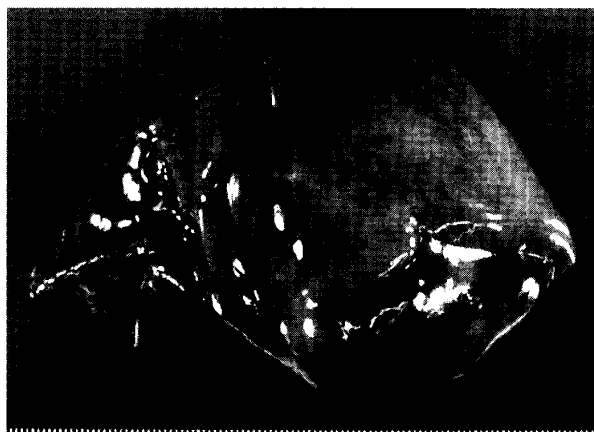


図 1

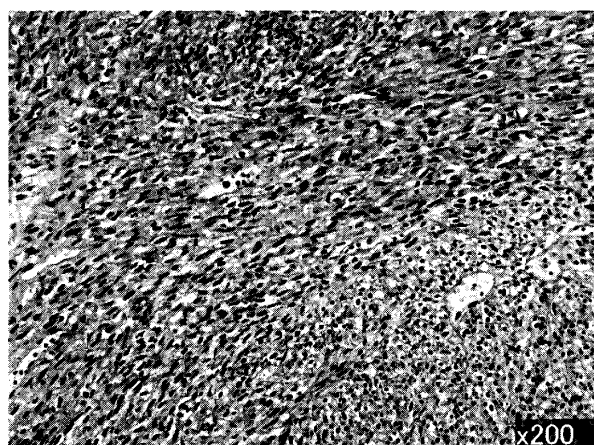


図 2

1) 長野県立こども病院臨床病理科, 2) 同産科

3) 大阪府立母子保健総合医療センター検査科病理